

もう点をなくすことこそが、防災の役割

自分たちが住んでいる地域はどんなところですか、どんなところでしたか。

過去にどんなところでしたか。過去を知ることによって災害の危険のていどを知ること

ができます。今は、ハザードマップがありますので、大まかなことを知ること

ができますが、自分や家族で確認することも大切なことです。

せいびしたいのは、正確で役立つ情報のでんたつ方法

いまは、情報の時代とも言われ、様々な情報がこうずいのように、毎日あ

らゆるところからおしよせてきます。なかには、悪いことやまちがったことも

ありますので、それを正しく判断することがとても大切なことです。災害の時

には、まちがった情報で行動したためにぎせいになることもあります。

すんでいるところのリスクを知って備えをする

自分の住んでいるところは地震が来たらゆれやすいですか、大雨があつたら

水害がありそうですか、災害のもとはないですか。いがいと足元のことや周り

のことにきづかないことが多いものです。家族におそわったり図書館で知るこ

ともできますので、関心を持って知っておくとよいと思います。災害があつて

初めて知ったのではおそすぎます。

京(きょういよくすることが、^{さいだい}^{たす}最大の助け)

災害にかぎりませんが、^{ちいき}地域や^{がっこう}学校では、みんなで^{きょうりよく}協力するということがとても大事なことです。それぞれ人は得意なことも^{ちが}違うし、できることも^{ちが}違い、^{たいりよく}体力も^{ちが}違いますので、それぞれの人が^{ひと}協力^{きょうりよく}することで大事なことができるようになります。特に^{とく}災害^{さいがい}では、^{おも}思わぬこと、^{こま}困ったことが^{いっぱい}出^でてきますので、^{なに}何から^{はじ}初めて、どうすればよいのか。みんなそれぞれが^{おな}同じ^{おな}気持ちで^{うご}動かないといけないことが^{おお}多いことを^し知っておきましょう。どんな^{ひと}ひとにも^{ひがいしゃ}できることがあります。ぜったいに、ひとりでも^{ひがいしゃ}被害者を^{たす}ださないためにも、^{こころ}心を^{うご}あわせて^{たいせつ}動くことが大切^{たいせつ}です。